

下直筋後転術後の瞼裂変化 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間： 2018年 9月 18日 ~ 2019年 6月 30日

〔研究課題〕

下直筋後転術における後転量別の瞼裂幅変化の検討

〔研究目的〕

上下斜視の治療にあたり施行する下直筋後転術を施行すると、下眼瞼の下垂を生じることがあるといわれています。斜視の程度により下直筋の後転量が変わるが、その量の違いによる下眼瞼下垂の生じやすさを、すでに治療を行った患者の検査結果をもとに検討します。

〔研究意義〕

後転量別に生じやすさがわかれば、今後の手術の際に、下眼瞼下垂を生じないような術量にとどめるなどの工夫、調整が可能になります。

〔対象・研究方法〕

2015年9月から2017年11月までに帝京大で麻痺性斜視に対し鼻側移動術を含む下直筋後転初回単独手術を施行した患者さんを対象に、術式、手術前後の所見、手術予後など眼科所見を解析します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕

患者さんのデータは帝京大学医学部眼科学講座で匿名化し厳重に保管・管理し、個人が特定できないように配慮いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 兼担准教授 林 孝雄

研究分担者： 主任教授 溝田淳、 准教授 三村達哉、 病院准教授 渡邊恵美子、

助教 太根 ゆさ、水野義信、 助手 松本浩一、寺内岳

臨床助手 越智正登、浜野茂樹、矢倉和磨、酒井浩之、南波久貴

シニアレジデント 生方翔子、北川達士、吉津和真

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部眼科

TEL:03-3964-1211 (代表) [内線 32626]